

益々危険となる原発再稼働

機能しない原子力規制委員会・規制庁・原発なくても電気は足りている

1. 度重なる原発でのトラブル

人的要素も含め原因の徹底究明と再発防止が極めていい加減、嘘八百の記者会見

- (1) 川内原発1号機：再稼働直後に復水器チタン細管の破損と二次冷却水漏れ
- (2) 伊方原発3号機：再稼働直前に一次冷却水ポンプのシール部不具合、封入水の水漏れ
- (3) 島根原発2号機：ダクト（排気口）の保温材を取り外してみたら30×100cmの大穴
- (4) 女川原発2号機：原子炉建屋にひび1130カ所、上部の剛性が7割減
- (5) 高浜原発4号機：逆電流で原子炉スクラム、一次冷却水漏れ、大型クレーン倒れ建屋変形
- (6) 柏崎刈羽原発：免震重要棟の耐震性不足（数年前にわかっている再稼働申請）

2. 活かされない原発事故の経験＝進まない事故実態・原因究明、にわか作りの「新規制基準」

- (1) 基準地震動・基準津波のゴマカシと過小評価（島崎邦彦東京大学名誉教授の異議ありを無視、熊本地震経験を無視 ⇒ 入倉・三宅式（海外地震）、平均値の回帰曲線使用済み核燃料、何度も強い揺れが襲うなど ⇒ 熊本地震の実測に対して基準地震動は1/3以下）
- (2) 緊急炉心冷却装置（ECCS）が機能しなかった（IC、RCIC、HPCI他）
- (3) 使用済み核燃料プールが非常に危険（3号機核爆発疑惑を含む）
- (4) 免震重要棟の緊急時における重要性 ⇒ 単なる耐震構造でOKを出す規制委
- (5) フィルター付きベント装置の設置を猶予など、重要安全施設の手抜き
- (6) 水位計・圧力計・温度計などが炉心緊急時に正常に機能せず炉心状態が不明となる
- (7) 無きに等しい炉心溶融対策（コアキャッチャー無し、いい加減な水素爆発対策他）
- (8) 過酷事故体制未整備（技術低水準と緊急マニュアル無視、命がけ作業誰が、日常訓練他）
- (9) 事故対応の補給体制や専用通信手段の確保
- (10) 実効性のない「避難計画」＝原発周辺住民は猛烈な放射能の中に置き去り

3. 危険極まりない老朽化原発の再稼働

- (1) 巨大な複雑系施設の原発を全面的に点検し安全確認をすることはできない
- (2) 原子炉圧力容器の中性子照射脆化と脆性遷移温度上昇（水を入れたらパリンと割れる）
- (3) 現場の点検をロクスツポせず書類審査だけでOK

4. フランスで発覚した「原発をつくる鉄鋼の強度不足」（別冊子）

- (1) 日本鑄鍛鋼製造・含有炭素が多い（他に日本製鋼所（武器製造）、JFE、鑄造品と鍛造品）
- (2) フランスと日本の規制当局の違い（現物検査か書類審査か：何故、現物を調べないのか）
- (3) 川内原発2号（交換予定のボロボロ蒸気発生器をそのまま使用、米国向け出荷時の書類確認でOK）

5. 昨今における原発安全審査上の注目問題点

- (1) 熊本地震の教訓は生かされたのか＝2度以上、大きな地震が襲ってきても耐えられるか
- (2) 巨大噴火時の火山灰の量 ⇒ 非常用電源が止まる（高浜・大飯＝大山、東海第二＝那須岳・赤城山）
- (3) 沸騰水型老朽化原発の東海第二＝マークII型（水蒸気爆発の危険）、防潮堤の液状化対策、フィルター付ベント他

6. 東海村再処理工場の恐怖（東海第二原発よりも危険極まりない）

- (1) 高レベル放射性廃液タンク（約400m³）⇒ 冷却失敗なら水素爆発＝東京含む数百キロ圏内壊滅
- (2) 旧ソ連・ウラル核惨事：マヤーク軍事用再処理施設で高レベル放射性廃液貯蔵タンクが爆発
- (3) ガラス固化を急がせないと非常に危険（ガラス固化施設老朽化で故障頻発、数十年かかる？）
- (4) 東海村再処理工場のスクラップ費用は無量大（これまでに約9千億円、今後は???）